

はるかな尾瀬

目次

- 02 特集「新・尾瀬ビジョン」～みんなに愛され続ける尾瀬を目指して～
- 04 2018年山の鼻ビジターセンターのイベントを振り返る ～尾瀬で過ごす特別な夜～
- 06 尾瀬のミニ観察(総集編)②
- 07 現地情報
 - ①原をわたる風だより
 - ②おこじよだより
- 09 TOPICS
 - 尾瀬ボランティア情報
- 10 尾瀬保護財団からのお知らせ



2018.12 vol.38
(公財) 尾瀬保護財団



尾瀬沼畔からの夕焼け 撮影日：平成30年8月14日

「新・尾瀬ビジョン」

「みんなに愛され続ける尾瀬を目指して」

平成18年、尾瀬保護財団は環境省からの委託を受けて、尾瀬の今後のあり方について考える「尾瀬の保護と利用のあり方検討会」を立ち上げました。尾瀬に関わる学識経験者、地元関係者、自然保護関係者及び行政機関などの委員による度重なる議論の結果を「尾瀬ビジョン」(21世紀の新しい国立公園にふさわしい保護・利用・管理運営のあり方とその具体化に向けて)として取りまとめ、環境省に提出しました。国立公園のビジョンを取りまとめるということは、当時としては先進的な取り組みでもありました。

この「尾瀬ビジョン」の策定から10年が経過し、尾瀬を取り巻く社会情勢・自然環境は大きく変化して来ました。そうした変化を踏まえながら将来を見据えた新しいビジョンへと改定するため、環境省からの委託を受けて検討を進めました。地域の担い手や尾瀬の利用者等を含めた「みんな」の想いをとりまとめ、平成30年9月10日に福島県檜枝岐村御池口ツジで開催された尾瀬国立公園協議会において、尾瀬がめざす姿と方向性を示す「新・尾瀬ビジョン」『あなた』と創る『みんな』の尾瀬』が決定されました。

これから尾瀬は、この「新・尾瀬ビジョン」に沿って様々な取り組みを進めていくこととなりますので、簡単ではありますが内容と込めた想いをここでご紹介させていただきたいと思えます。なお、「新・尾瀬ビジョン」については、(公財)尾瀬保護財団のHP (<https://www.oze-fnd.or.jp/archives/88484/>) でご覧いただけます。



尾瀬保護財団 HP

尾瀬の現状を踏まえて考える

これからの尾瀬のあり方を考えるためには、尾瀬の現状をどのように捉えるかが重要です。「新・尾瀬ビジョン」では左の表のとおり、「尾瀬を取り巻く自然的・社会的な主な変化」として6項目、「活かしたい尾瀬の強み」として7項目を挙げております。

尾瀬を取り巻く変化の中には、尾瀬だけに留まらず、日本や世界レベルの問題も含まれており、課題解決には困難を伴いますが、現状を悲観するだけでなく、強みは強みとして認識し、しっかりと活かしていくことが大切です。

尾瀬を取り巻く自然的・社会的な主な変化

- ① 少子高齢化・人口減少による影響
- ② ライフスタイルの変化とレジャーの多様化
- ③ 外国人旅行者の増加
- ④ 気候変動による自然生態系への影響
- ⑤ ニホンジカによる影響
- ⑥ 財政状況などの悪化



高山植物を採食するニホンジカ

活かしたい尾瀬の強み

- ① 歴史・伝統・文化の魅力
- ② 尾瀬が持つ普遍の価値
- ③ 自然保護の原点
- ④ ごみ持ち帰り運動発祥の地
- ⑤ 多様な主体が参加できる「仕組み」の存在
- ⑥ 一級の自然の中で歩き、学ぶ、宿泊できる特別感
- ⑦ 受け入れることができる利用者層の幅広さ



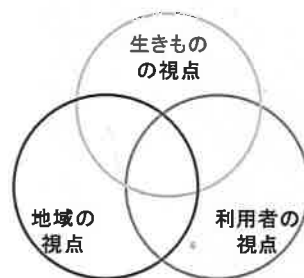
馬で荷物を運ぶ (1957年)

「みんなの尾瀬をみんなで守りみんなで楽しむ」

「尾瀬を取り巻く自然的・社会的な主な変化」、「活かしたい尾瀬の強み」などを踏まえながら、これからの尾瀬がめざす姿を「みんなに愛され続ける尾瀬」として示しました。最初の尾瀬ビジョンから大切にされてきた「みんなの尾瀬をみんなで守りみんなで楽しむ」というスローガンは行動理念として引き継がれました。

「みんなに愛され続ける尾瀬」では、3つの視点①生きものの視点②利用者の視点③地域の視点を示し、これらの視点をバランスよく考えることで「みんなに愛され続ける尾瀬」を目指すこととしています。

この「みんなに愛され続ける尾瀬」を実現させるために意識することが、行動理念「みんなの尾瀬をみんなで守りみんなで楽しむ」です。「新・尾瀬ビジョン」では、「みんなの尾瀬」「みんなで守る」「みんなで楽しむ」に分けて、今後の方向性と必要な取り組みを整理しています。スペースの関係から細かいご紹介ができませんが、ぜひ「新・尾瀬ビジョン」の冊子で詳細をご覧くださいと思います。みんなで力を合わせ、「新・尾瀬ビジョン」を実現しましょう！



3つの視点のバランスが重要

「新・尾瀬ビジョン」に記載された今後の方向性一覧

みんなの尾瀬

- ①愛される尾瀬づくり
- ②モデルとなる尾瀬づくり
- ③尾瀬を育てる仕組みづくり
- ④情報の効果的・効率的な発信
- ⑤尾瀬の現状把握

みんなで守る

- ①自然豊かな尾瀬づくり
- ②歴史・伝統・文化が息づく尾瀬づくり
- ③野生動物との軋轢の解消
- ④科学的知見に基づく保全

みんなで楽しむ

- ①魅力あふれる尾瀬づくり
- ②幅広い楽しみ方の検討
- ③楽しむための土台づくり

意見交換会でのご意見

尾瀬の好きなところ

- 毎日景色が違う ● のんびりした時の流れ
- 関係者との会話 ● 水 ● 空 など

尾瀬のファンづくり

- 尾瀬のストーリー作り ● 朝ドラで“尾瀬”
- 山小屋の住み分け ● ゆるきゃら など

二ホンジカとニッコウキスゲ問題

- シカを観光資源に ● キスゲ以外の魅力を探す
- 種を播く ● ジビエとしての提供 など

滞在型・周遊型促進

- 早朝の景色を売り出す ● OZEフェス
- 連泊割引 ● 山小屋毎のスイーツ巡り など

山ノ鼻地区意見交換会の様子。▶



◀ 活発に意見を出すため、模造紙と付箋を使って意見交換。



「新・尾瀬ビジョン」はみんなの力を合わせるために、今後の大きな方向性を示したものです。そのため、この方向性に沿って具体的な取り組みを考え、実際に行動していくことが必要です。こうした意見交換の場をこれからも大切にしながら、「新・尾瀬ビジョン」を広め、みんなで尾瀬のこれからを考え、行動していくことで「みんなに愛され続ける尾瀬」に少しずつでも近づけていきたいと思います。

尾瀬を取り巻く状況や「新・尾瀬ビジョン」の考え方を普及するとともに、「これからどんなことが必要か」「自分に何ができるか」考えることを目的に意見交換会を開催しました。山ノ鼻地区で7月30日、尾瀬沼地区で8月6日に開催し、10月9日には、見晴地区の山小屋の方々と意見交換を行いました。

山ノ鼻と尾瀬沼での意見交換会は、山小屋やガイド、ビジターセンター関係者などにお集まりいただき、自由な発想で楽しく意見交換をすることができました。テーマは、「私は尾瀬のことが好き！」「尾瀬のファンづくりのために何が必要か」「二ホンジカとニッコウキスゲ問題には何が必要か」「滞在型・周遊型の促進のために何が必要か」という4つで行いました。どのような意見が出たのか少しご紹介すると左の表のとおりです。

「これからの尾瀬を考える」意見交換会」の開催

2018年山の鼻ビジターセンターのイベントを振り返る ～尾瀬で過ごす特別な夜～

山の鼻ビジターセンターでは、毎週金曜、土曜の夜に尾瀬の概要から季節の話題、保護と適正利用の推進などについてお伝えする「スライドショー」を実施しています。今シーズンは、通常の内容に加えて特別なテーマで開催しました。どのテーマもご来場いただいたお客様に楽しんでいただくことができ、私たち職員もうれしく思っています。このイベントを行うにあたって、様々な方にご協力いただきました。この場をかりて御礼申し上げます。

8月3日(金)

群馬県立尾瀬高等学校理科部によるスライド発表

「尾瀬」の名が付く尾瀬高校の理科部では、尾瀬で問題になっている二ホンジカについて研究しています。「尾瀬高校という名前は聞いたことあるな」という方もいらっしゃると思うのですが、どんな活動を行っているのか知られていない...という事で、生徒自ら発表してもらいました。本番直前、緊張して顔がこわばっていた生徒達。でも、本番になるとさすが尾瀬高生。(尾瀬高校の生徒は普段から発表の場がたくさん設けられています)お



真剣な表情で発表を待つ生徒達

お客様とうまくコミュニケーションをとりながら、尾瀬高校の特色や二ホンジカが尾瀬のどの辺りに多いのか、尾瀬でどういう方法で調査を行っているのかを話してくれました。その姿にお客様も私たち職員も終始感心しきりで、本当に勉強になりました。機会があれば、また発表をよろしく願いますね。尾瀬での調査、本当にお疲れ様です！

8月11日(土・山の日)

山の日に星について考える夜 in 尾瀬

尾瀬で星空を見たことはありませんか？街灯もなく、自然に囲まれた尾瀬で見る星は本当に素晴らしいのです。このイベントは「みなかみ星空クラブ」という谷川岳の天神平で星のイベントを行っている方々にご協力いただいていたことまでできました。実は暦が改正されるまでは今の8月中旬辺りが七夕だったということで、「織姫と彦星」のお話から、星や宇宙にいたるまで様々なお話を伺いました。あいにくこの日は雲がかかり、実際に天体望遠鏡で星を見ていただくことはできませんでしたが、「星のイベントはたくさんしてほしい」といううれしいご意見もいただきました。



たくさんのお客様とみなかみ星空クラブの方々

9月22日(土)

尾瀬でたのしむ中秋の名月

「中秋の名月」はお芋の収穫祭だったという話もあるのですが、昔は電気がなく、農作業をするのにお月さまの明かりが大切だったとか。また、日本の八口ウインといわれる「お月見どろぼう」。子供の頃、やりました!という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。お月さまの明かりの下、子供たちがお供え物を盗み食するという文化です。このような風習のお話や天体としての月のお話をさせていただいたあと、天体望遠鏡で「お月見会」を行いました。お月さまのクレーターなど、実際に見ていただくことができました。普段街で見ている月と、自然に囲まれ、街灯のない尾瀬で見る月はどこか違うように感じられたようです。

※夜の散策の際には、ヘッドライトを携帯し、足元に十分注意してください。野生動物の活動が活発な時間ですので、事前にクマの目撃情報を収集しましょう。山小屋の門限を確認することも大切です。



お客様と一緒に見た月は、私たちにとっても特別なものとなりました

9月23日(日)

尾瀬の大切な歩荷さん

いつもすれ違う大きな荷物を背負っている歩荷さん。その素顔は…というところで、皆様にも直接歩荷さんと触れ合っていたきたくてこのイベントを開催いたしました。尾瀬の山小屋さんや私達山の鼻ビジターセンターの食材を背負ってくれている、本当に大切な存在の歩荷さん。「いったい

どれくらいの荷物を背負えるんだろう。どこまで行くの。転んだらどうするの。冬はどうしてるの。」など、

普段聞くことのできない皆様の疑問を解決していただこうと、歩荷さんを招いてトークショーを行いました。このイベントを行うにあたり、密着取材まで快く引き受けてくださいました。歩荷さんの一日をスライドにしてみました。お客様も興味津々。その大変な仕事ぶりを知って、「もっと山小屋で販売されているものの値段を高くしていいから、お給料上げてあげて!」とアンケートに書いてくださった方もいました。歩荷さんへの質問コーナーも和気あいあいと進み、お客様に「歩荷体験」もしていただいたところ、意外にも女性のほうが背負うだけでなく、歩き回ったりして拍手と歓声があがりました。大盛況のうちにイベントは終了。歩荷さんもお客様も楽しんでいただけて、私も大満足でした。

ご来場いただいたお客様、そしてご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。イベントを通じて尾瀬の夜空の魅力だけでなく天体そのものや、日本の文化、尾瀬に関わる様々な人々のことを知っていただけたら幸いです。財団HPのNEWS & TOPICSに、イベント実施報告も掲載しておりますので、合わせてご覧ください。

皆様に、「ビジターセンターに足を運びたい」と思っていただけのようなイベントをこれからも企画していきたいと思っております。

(山の鼻ビジターセンター管理員 萩原舞)



取材とイベント当日にご協力いただいた渡部さん。この笑顔から人柄が伝わってきます

＊尾瀬のミニ観察＊ 《総集編》②

平成 30 年 4 月 6 日発行の第 36 号で惜しまれつつも最終回を迎えたフラワーエコロジストの田中肇さんによる人気コラム「尾瀬のミニ観察」。今回は総集編の第 2 回をお送りします。

＊ニッコウキスゲ (花期：7月上旬～8月上旬)

尾瀬を黄色く染めるニッコウキスゲ。この花には蜜や花粉を求めてセセリチョウ、マルハナバチ、ハナアブなど様々な昆虫が来る。しかし、それら昆虫は花に比して小さすぎ、雌しべの先にはほとんど触れない。蜜を吸うとき雌しべの先にも触れて、花粉を媒介するのはアゲハチョウの仲間だけ。蜜を吸いながら羽をはたはたと動かして雄しべに触れ、羽についた花粉を雌しべに運ぶのだ。ただ、尾瀬にはチョウが少ない、あなたは運よくその場に立ち会えるだろうか。

第 5 回 vol.9 (2009.6) 掲載



(写真は赤城山にて撮影)

＊ウメバチソウ (花期：8月中旬～9月中旬)

秋、星のように点々と咲く白い花。その 5 枚の花弁に囲まれて、黄色く小さい粒々がいくつも光っている。「おー蜜がこんなに」と思って触れても、粘らないし取れることもない。これは蜜に見せかけた偽物なのだ。この粒々を支える細い柄は、緑色の手のひら状のところ集まっている。ルーペで見ると、その手のひらに透明な液が盛り上がっている。それが本当の蜜なのだ。花は粒々で昆虫を騙したのではない。我々も食堂のサンプルを見て、誘い込まれるではないか。

第 6 回 vol.10 (2009.9) 掲載



＊ザゼンソウ (花期：5月上旬～6月上旬)

ザゼンソウは、案内していただかないと発見できない地味な植物だが、ユニークな花の姿に人気がある。紫褐色の苞がまだとんがり帽子形でわずかに隙間ができたとき、中では雌しべが花粉を待つ状態になっている。気温が 0 度に近いときでも、その苞の中は、10 度以上に保たれている。この温かさ、臭いでハエの仲間を誘い花粉を運ばせるのだという。たぶん晴れた日に、ハエの仲間が来るのだと思うが、私にはまだ解けない謎のままだ。

第 7 回 vol.11 (2009.11) 掲載



(写真は片品村で)

＊ワタスゲ (5月)

ワタスゲの花の穂はツクシのような姿で枯れ草の中で立つ。それは、真っ白なわた毛と対照的な黒い鱗片につつまれていて目立たない。

ワタスゲは風媒花なのに花どきには背が低い。そのため早く開花しないと、周囲の草に囲まれて風をさえぎられ、花粉を遠くまで飛ばせなくなる。そこで鱗片を黒くし、日光を吸収して穂を暖めていると考えられる。こうして、暖まった穂は生理活性が高まって早く咲き、花粉を飛ばせるようになるのだ。

第 8 回 vol.12 (2010.3) 掲載



(フラワーエコロジスト 田中肇)

原をわたる風だより

尾瀬山の鼻ビジターセンターより



《今シーズンを振り返って…》

3月の除雪作業から4月の開設準備と全て初めての経験から今年の尾瀬が始まり無事に5月の開所式を迎えることができましたが、初めてのビジターセンター勤務であり不安でいっぱいでしたが、ベテランの先輩・管理員・ボランティア・山小屋関係者の方々に助けていただき無事に終えることができました。振り返って振り返りますと、全て初めての経験で、傷病対応やクマ対策と想像以上に大変な業務であり良い経験をさせていただきました。また、ビジターセンターに勤務しているからこそ体験できる尾瀬の自然に感動しながらの半年でした。

最後に尾瀬の自然を守るために尽力されている方々に感謝したいと思います。本当に有難うございました。来年度も何卒宜しくお願いいたします。(小川浩司)

長年尾瀬を見てきた中で、特に今年は天候不順に感じました。シーズン前半は晴れの日が多く、後半は曇りや雨の日が続きました。

そんな天候が樹木には良かったのか、悪かったのか分かりませんが、ブナ・ミズナラ等の実付きが良かったり、キノコ類も沢山生えました。

来年の天候は分かりませんが、動植物にとって良い、適度な晴れや雨の日を期待したい。

今年も山の鼻V.C活動は、支援等のボランティアさん・地域の山小屋さん・尾瀬関係者等の皆さんのおかげで、無事終了できました。尾瀬のシーズン中は大変お世話になりました。(世原宗利)

尾瀬に関わり早や6年にもなりました。お客様に「尾瀬はいつ来たら良いの?」とよく聞かれます。いつ来ても良い所ですと御答えしています。

6年勤務をしていて、一度として同じ顔を見せない尾瀬。自然環境が変化しても私たちを楽しませてくれるでしょう。自然だけがなく、その時々に出会い触れ合う人たちの変化が楽しかったりしませんか?

昨年対応した方が、ビジターセンターの受付で「去年参考になりました」と言っていました。何気ない一言でも管理員をしていてよかったと思いい出の一部になりました。

来年の尾瀬がどうなるのか、今から楽しみです。(森山暢希)

直に4年間のシーズンも終わろうとしている今日この頃、ふと昔を思い出すと、何の気なしに始めたこの仕事もだいぶ長く続いているものだと想います。

それと同時に、それぞれの年に特徴があつて、花の時期や状況も入山時の雪の有り様も天候と気温の傾向等々も年によって異なり、正直自然というものは蓋を開けてみないと分からないものだと感じました。

しかし逆に考えれば自然を楽しむのは、自然の状況に合わせて、在るものを楽しむことではないかなどと、他愛もない事を思いついた次第。

最後に、今シーズンも多くの方にお世話になりました。本当にありがとうございます。この場を借りて御礼申し上げます。(菅原眞晴)

今シーズンは尾瀬の自然を観察することもさることながら、尾瀬に関わる様々な人たちと今までよりも少しだけ踏み込んで話すことができたな、と感じます。それはなぜかといえは、イベントを行うとき、特別な展示をするとき、いつも協力をお願いすると快く受けて下さる方々がいてくれたからです。今まで話していたたわいもない話とは違う、みなさんの新たな一面を見ることで、私は「こういう人たちがいるから、尾瀬はずっとあり続けることができるんだ」と感動しました。これからも、尾瀬を愛する人たちと、尾瀬を尊敬する人たちが増えることを願い、少しでも力になれる活動ができればと思います。(秋原舞)

あつという間の半年間でした。尾瀬に入ってから学ぶこともたくさんありました。共に生活する仲間達、ボランティアさん、ガイドさん、山小屋さん、歩荷さん、乗り合いタクシーの運転手さん等、尾瀬に関わる多くの方々に助けていただきました。皆さん尾瀬を愛してやまない人達ばかりで、管理員1年目の私にも温かく接してくださり大変感謝しています。

尾瀬での住み込み生活は、神秘的な朝夕の景色や季節の移り変わりを間近で観察できるだけでなく、野生動物への対応、台風による冠水や倒木など、自然の厳しさも教えてくれました。いつまでも愛される尾瀬

であるために、訪れる方々が安全に過ごせるように、今年の経験を来年に活かして、皆さんと一緒に楽しみながら活動していきたいと思えます。(横井信彦)

畑違いの仕事から飛び込んだ自分にとって当初、尾瀬での生活は右も左もわからない様な状態でした。半年間、楽しく過ごすことができたのは、一から業務を教えて下さった諸先輩方、尾瀬の自然について教えて下さったガイドの皆さん、親切にしていただいた関係者各位、山小屋の方々のおかげです。沢山のお客様や動植物との出会いを与えてくれた尾瀬に感謝。

お客様から「尾瀬はいつ来たら一番良いですか?」と聞かれる事があります。とても悩んでしまう質問です。花が見られなくもなつた季節ですら毎日新しい発見があり、いちいち感動してしまうからです。季節の連続性の中に身を置き、表情を変える景色を眺め続けた、とてもしあわせな半年間でした。(柴崎恵)



2018年の山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター職員

おっじょだより

尾瀬沿ビクターセンターより



《今シーズンを振り返って》

今シーズンもあつという間の半年でした。今シーズンは、昨年以上に星空観察会を数多く実施させていただきました。参加された皆様ありがとうございました。尾瀬の夜は山小屋の灯りだけなので、天の川をはじめ満天の星を容易に眺めることができました。大人の方でも天の川をはじめ見たいという方が多くいることに驚いています。ひとりでも多くの方が星空を眺めながら、尾瀬の素晴らしさを感じていただければ幸いです。

ビクターセンターで生活を共にした職員をはじめ、多くの方に助けられて無事シーズンを終えることができました。ありがとうございました。(阪路善彦)

猛暑日続きだった今年の7月。例年は涼しいはずの尾瀬沿も今年は身体に堪える日が続きました。尾瀬は涼しいことになっているのでもちろん冷房はありません。38℃でも冷房のある下界の方が、28℃で冷房の無い尾瀬より過ごしやすかったのではないのでしょうか。地球温暖化による気候変動の中で、これから20年30年で尾瀬の植物や動物にはどのような影響があるのか、尾瀬に関わる一人としてこれからもしっかり見届けていきたいと思います。(佐々木彩乃)

私は普段、登山はしないのですが、今年は業務での巡回や休日この周辺の登山を行い、燧ヶ岳、至仏山、会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山と尾瀬の主要な山頂を全て踏むことができました。それはビ



クターセンターでお客様への対応するの自分で実際に体験したいと思ったこと、まわりのみんながいるいるな山に登ったり、きれいな写真を撮るのに刺激されたからです。そしてこの5ヶ月間の尾瀬での業務、生活を充実させ、忘れがたいシーズンとなりました。(中馬慎二)

青々と茂りし唐松黄差して散るぞ悲しき逢瀬の夕暮。夕暮の大江湿原を歩いていると時折、ニホンジカの甲高い悲しげな声が出て「寂しい」と鳴いているようで、山裾に沈む夕日を見ていると涙が一縷、流れま

す。今年は何ビクターセンターとの勤務となり、少々大変でしたが、それにも勝る充実した日々を過ごすことができました。深雪から水芭蕉が顔出し、郭公が春を告げたらまた尾瀬に帰れることを楽しみにしております。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。(川上藍)

尾瀬です。2〜3日して帰ってきて尾瀬沿を見ると「今日も景色が違うなあ」と毎回のように感動していました。いろいろなたちとの出会いも、とても楽しく貴重な体験になりました。ありがとうございました。(西川眞治)

(西川眞治)

五月に期待と不安でいっぱいの中、訪れた尾瀬沿ビクターセンター。あれから六ヶ月経って今は感謝の気持ちでいっぱいです。三十分間の観察会に参加してくれた方から拍手をもらったり、感謝の言葉を頂いたりするとき、「ブログいつも見えますよ」と声かけしてもらったとき、尾瀬沿で働いて良かったと思います。

尾瀬を訪れる人が豊かな、そして温かな気持ちを持っていくから、私までその心を分けてもらえるような気がします。ビクターセンターを訪れてくれた人、共に生活した人、様々な形でお世話になった人、すべての人に感謝です。(加藤樹)

(加藤樹)

冬囲い外しから始まった尾瀬沿ビクターセンターでの仕事も、あつという間に六ヶ月がたとうとしています。その六ヶ月の間に春・夏・秋の三つの季節が移り変わりました。なんと一つの季節の短いこと！短い時間に合わせて精一杯花を咲かせ実を付ける花々のなんと美しいこと！そして、自然の中でたくさんの方と出会えて感動を共有させていただいたこと！尾瀬での夢のような出会い、感動に感謝しています。ありがとうございました。(矢巻将兵)



した。

(渡邊寿敏)

私にとって初めての尾瀬でのシーズンがもうすぐ終わります。五月中旬、沼山峠から雪道の中を転びながら歩いたあの日から5ヶ月が経ちました。最初は新しい仕事・生活に慣れることに必死でしたが、毎日が充実しています。



今まで尾瀬で一番好きな季節は草紅葉の頃でしたが、今朝それが変わりました。大江湿原の枯れ草をキラキラと今年の初霜が飾る美しさは、早朝の冷たい空気を吸い込む爽快感と一緒に、まるで自分が浄化されたような錯覚をしてみたいです。春夏秋冬を過ごしてみても、私の中の尾瀬がどんどん更新されますが、一貫して尾瀬の少し寂しい雰囲気が好きです。来年はどんな面が見られるか楽しみにしつつ、下山まで大きな事故なく過ごせたらと思います。ありがとうございました。(大澤末奈)

(大澤末奈)

尾瀬に関わることで6年目になりました。今年も尾瀬沿に常駐していた事もあって春のミスバシヨウに始まり、秋の草紅葉など季節の移り変わりを肌で感じる事が出来ました。

7月は山ノ鼻に一ヶ月間滞在していました。尾瀬の中でもあまり馴染みの無い山ノ鼻は新鮮な気持ちを持って尾瀬を感じる事ができました。また、新しい人との出会いもあって充実した日々を送りました。毎年違う姿を見せてくれる尾瀬。来年はどんな出会いがあるのか今から楽しみです。(矢巻将兵)

(矢巻将兵)

トピックス TOPICS

大清水湿原におけるミズバショウ植栽イベントで車椅子が寄贈されました

10月20日(土)に大清水湿原において東京電力HD(株)主催のミズバショウ植栽ボランティアが開催されました。クラウドファンディングに賛同された方を中心に70名以上の参加者が集まり、2,000株のミズバショウが植栽されました。また同日、仙台市のかすみ町中部町内会から車椅子が寄贈されました。車椅子は大清水休憩所に設置され、一般利用者が自由に利用することができま

▼車椅子寄贈



す。近年、ニホンジカの食害でミズバショウが激減してしまつた大清水湿原。東京電力は群馬県片品村の湿原回復プロジェクトと連携して、車椅子対応のワイド木道約70メートルを整備しています。2,000株のミズバショウは尾瀬まで入ることが難しい高齢者や身体の不自由な方をも楽しませてくれることでしょう。大清水湿原は例年ゴールデンウィーク前半に見頃を迎えます。10連休のゴールデンウィークは尾瀬の本格シーズンを先取りして、大清水湿原のミズバショウ観賞はいかがでしょうか？

は

▼植栽されたミズバショウ



▼ミズバショウ植栽方法について説明を受ける参加者



尾瀬ボランティア情報

このコーナーでは尾瀬ボランティアの活動の様子を紹介します。

「尾瀬自然解説ガイド研修」を開催しました

8月19日(日)、尾瀬沼地区において、ガイド技術の更なる向上を図る研修会を開催し、尾瀬自然解説ガイド6名と、お客様役の尾瀬ボランティア4名に参加していただきました。参加者の皆様には、それぞれのガイド技術を積極的に共有していただき、とても有意義な研修となりました。



「大江湿原防鹿柵撤去(取外)作業」を実施しました

ニホンジカの食害から大江湿原の植生を保護するため、皆様のご協力で今年6月に設置した防鹿柵について、冬の積雪に備え撤去する作業を10月13日(土)に実施しました。



尾瀬ボランティア3名をはじめ、企業ボランティアの皆様にもご参加いただきました。

「ありがとう尾瀬清掃活動」を実施しました

平成30年度の尾瀬シーズン終盤、現地におけるボランティア活動の締めくくりとして尾瀬の自然に感謝を込め、来シーズンもきれいな尾瀬であるよう巡回清掃を実施しました。

9月2日(日)

一ノ瀬休憩所〜尾瀬沼コースには、尾瀬ボランティア4名が参加し、夏から秋へと移り変わる中、尾瀬沼畔でウメバチソウを愛でながらの清掃活動となりました。

10月13日(土)

尾瀬ヶ原コースは尾瀬ボランティア6名と企業ボランティアの2班体制、尾瀬沼一周コースは尾瀬ボランティア7名と企業ボランティアの2班体制で、穏やかな陽気の中、それぞれ清掃活動を行いました。

10月20日(土)
至仏山コースは、尾瀬ボランティア10名が参加し、至仏山東面登山道の踏み出し防止柵とロープの撤去を行いながら、清掃活動を行いました。

10月21日(日)
尾瀬ヶ原コースは曇りつつない晴天に恵まれ、尾瀬ボランティア10名とJA高崎ハム社員7名の2班体制で、山の鼻ビジターセンターから見晴地区までの清掃を実施しました。前日に実施した「至仏山東面登山道の踏み出し防止柵撤去」から連日でご参加いただいた方もいらっしゃいました。

今シーズンも尾瀬での活動について尾瀬ボランティアの皆様にも多大なご協力をいただきました。ただ今、尾瀬は長い冬を迎えておりますが、皆様におかれましては雪解けを待ち、引き続き来シーズンもご協力を賜りたく、よろしくお願いいたします。





寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行い、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。

■ 税の優遇措置等について

尾瀬保護財団へ寄付をすると次のような税の優遇措置が受けられます。

控除対象	内容	必要書類
所得税、法人税	尾瀬保護財団は「公益財団法人(免税団体)」に認定されており、寄付金は税の優遇対象となります。	尾瀬保護財団発行の「寄付領収証」
個人県民税、個人市町村民税	尾瀬保護財団を対象団体として指定した都道府県または市町村にお住まいの個人の方については、県民税または市町村民税の控除対象となります。	尾瀬保護財団発行の「控除対象寄付金受領証明書」、「寄付金税額控除申告書」

※所得税、法人税の詳細については、最寄りの税務署、県民税市町村民税については、お住まいの都道府県、市町村にお問い合わせ下さい。

■ 特別協賛寄付・協賛寄付について

企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度を設けています。詳細は財団事務局（☎ 027-220-4431）にお問い合わせください。

■ 寄付の方法

当財団へご寄付いただく場合は、財団事務局（群馬県庁 15 階・☎ 027-220-4431）へご来訪いただくか、財団にご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。振込手数料は寄付者のご負担となりますのでご了承下さい。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095	新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	福島銀行本店営業部	普通	0590088		北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大東銀行福島支店	普通	1287138		大光銀行新潟支店	普通	0837334
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428				
	東和銀行本店営業部	普通	0975531				

特別協賛寄付者のご紹介

※10月31日現在、五十音順、敬称略



顧客と時代のニーズを追い求めて…

糸井商事(株)

糸井商事株式会社 地元企業として、日本の宝である尾瀬の自然環境保全に役立てて欲しいという趣旨から、100万円のご寄付をいただきました。昨年度に引き続3回目となります。(通算寄付総額 3,000,000円)

寄付者からのメッセージ: 糸井商事は昭和21年創業、今年で72周年を迎えました。「顧客と時代のニーズを追い求め続けます。」と「会社の繁栄、社員の幸福、地域社会への貢献を三位一体で推し進めます。」を経営理念に掲げ、地域にとって存在価値のあり続ける企業を目指しています。社長が球団代表を兼ねている群馬ダイヤモンドペガサスの活動と合わせながら、尾瀬の自然環境保護の応援をさせて頂きます。



エコ計画

株式会社エコ計画 環境・食・貢献をテーマに事業を展開している企業として、「豊かで美しい尾瀬の自然を後世にまで伝える」という当財団の趣旨に賛同いただき、社会貢献事業の一環として100万円のご寄付をいただきました。寄付は、今回で3回目となります。(通算寄付総額 3,000,000円)

寄付者からのメッセージ: エコ計画は、「環境・食・貢献」をテーマに事業を展開する環境貢献企業です。群馬県では、古民家を移築した自家源泉を備える2つの直営旅館に加え、高崎市倉淵町にはCO2削減と森林保全活動の一環として約1,000haの社有林を保有。フォレストストック協会により「エコ計画の森林」として認定を受けました。

また、群馬県の環境教育を盛り上げるため、小・中学生を対象とした環境に関するプレゼンテーション大会「ぐんまエコ宣言!」を今年度よりスタート。尾瀬は、日本の自然保護の原点でもあり、今後も地域社会との共生、発展に貢献して参ります。

共和工業株式会社

代表取締役 松井恒雄

共和工業株式会社(三条市上須頃) 当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、尾瀬の保全に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。同社からのご寄付は、通算で9回目となります。(通算寄付総額 1,500,000円) 寄付者からのメッセージ: 共和は太陽光発電事業など自然保護を支援してまいります。

SAVE ON

株式会社セーブオン 群馬県内のセーブオン全店舗において、尾瀬環境保全募金を実施していただき、その募金額をご寄付いただきました。(通算寄付総額 8,308,103円)

寄付者からのメッセージ: ㈱セーブオンでは、「尾瀬国立公園」が位置する群馬県の店頭にて募金を実施し、多くのお客様に寄付をお寄せいただきました。ご協力頂いたすべてのお客様に深く感謝いたします。今後も、尾瀬の貴重な自然環境を後世まで永く守り続けるための活動を応援してまいります。

ウォーム・マネー

WARM の MONEY

福島銀行



Minakami Kogen
Hotel 200

明日をもっとおいしく

meiji

株式会社福島銀行 平成24年11月に発売された「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」の平成29年3月末現在残高の0.01%に相当する、1,000万円のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 67,447,843円)
また、昨年度に引き続き街頭募金活動を実施いただき、10万円をご寄付いただきました。(募金総額 439,986円)
寄付者からのメッセージ: 福島銀行は、中期経営計画「ふくぎん本気(マジ)宣言」の基本方針の中で、社会貢献の取組強化を掲げております。「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」では、お預け入れ頂いた同預金の年度末残高の0.01%相当額を尾瀬保護財団へ寄付させて頂いており、趣旨にご賛同頂いた多数のお客様より永年ご支持を頂いております。かけがえのない尾瀬の自然を守るため、福島銀行はお客様と共に、これからも積極的に保護活動に取組んで参ります。

水上高原ホテル200(水上高原リゾート株式会社) 水上より坤六峠を越えて尾瀬に入るツアーを同社が経営されているホテル(水上高原ホテル200)で実施されており、その収益の一部として30万円のご寄付をいただきました。また、ホテル内で募金を実施していただき、その募金額をご寄付いただきました。同社からのご寄付は、通算6回目となります。(通算寄付総額 1,752,116円)
寄付者からのメッセージ: 環境保全と共に尾瀬の雄大な自然と楽しさ・魅力を伝えて参ります。

株式会社 明治 (株)明治様の群馬工場で使用される水の水源でもある、尾瀬の自然環境を後世まで守り、次代に繋げていくことで、社会そして子どもたちの未来に役立てていただきたいとの想いで、35万円のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 2,400,000円)
寄付者からのメッセージ: (株)明治は、自らの事業が豊かな自然の恵みの上に成り立っていることを認識し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。その一環として、尾瀬の貴重な自然環境が守られるための保全活動の一助になる事を期待し、寄付させていただきました。今回の寄付金が有効に活用され、尾瀬の美しい自然環境が未来へ引き継がれていく事を願い、支援を継続してまいります。

尾瀬 紀行

尾瀬紀行(信託ファンド)で收受した信託報酬の一部として総額410万円余りをご寄付いただきました。
平成19年より今回が12回目のご寄付となります。(通算寄付総額 68,586,192円)



アセットマネジメントOne株式会社

アセットマネジメントOne株式会社 今年度は205万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額34,293,096円)

寄付者からのメッセージ: 尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。私たちは投資信託を通じて、尾瀬保護財団に寄付を行っています。



群馬銀行

株式会社群馬銀行 今年度は110万円余りをご寄付いただきました。(尾瀬紀行の他、財団設立当初からの寄付をいただいております。通算寄付総額 32,184,360円)

寄付者からのメッセージ: 信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させていただきました。趣旨にご賛同いただき投資信託をご購入いただいた全てのお客さまに深く感謝いたします。



第四証券
Daishi Securities

第四証券株式会社 今年度は4万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額1,811,612円)

寄付者からのメッセージ: 尾瀬の自然環境を後世まで永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



第四銀行

株式会社第四銀行 今年度は20万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 6,617,385円)

寄付者からのメッセージ: 尾瀬の自然環境を後世まで永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



すべてを地域のために
東邦銀行

株式会社東邦銀行 今年度は75万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 12,031,164円)

寄付者からのメッセージ: 尾瀬の自然環境を後世まで永く守り続けることを目的として、当ファンドの販売・運用を通じて地域社会の発展に貢献するとともに、広く尾瀬の自然を愛する皆様と共に力を尽くしていく所存であります。今後とも積極的にCSR(企業の社会的責任)を重視して取組んで参ります。

協賛寄付者のご紹介

※10月31日現在、五十音順、敬称略

あいおいニッセイ同和損保

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社様では、地域・社会貢献の取組みの一環としてペーパーレス化によるeco保険証券を選択したご契約者からの売り上げの一部を、環境保護活動を行う団体等へ寄付を実施されております。今回はその寄付先として初めて当財団が選定され、39万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 396,790円)

糸井商事株式会社

地元企業として、日本の宝である尾瀬の自然環境保全に役立てて欲しいという趣旨から、当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同いただき、10万円のご寄付をいただきました。昨年度に引き続き3回目となります。(通算寄付総額 300,000円)

一般財団法人
群馬県警察厚生会

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同いただき、尾瀬の美しい自然が後世の人々に引き継がれるよう活動に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成23年度から毎年ご寄付をいただき、今回で8回目となります。(通算寄付総額 800,000円)

群馬トヨペット株式会社

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同いただき、30万円のご寄付をいただきました。環境とお客様とのふれあいを大切にしている群馬トヨペット」という企業理念のもと、尾瀬の優れた自然環境を保全するという活動主旨にご賛同いただき、引き続きご支援いただいております。通算2回目の寄付となります。(通算寄付総額 600,000円)

株式会社とりせん

当財団の自然保護活動に活用してもらいたいとの趣旨で、10万円のご寄付をいただきました。株式会社とりせん様からは、平成21年に株式会社とりせん創立60周年を記念して、環境保全に寄与するという目的で社員の皆様が募金活動を実施し、その収益をご寄付いただいております。同社からのご寄付は通算で6回目となりました。(通算寄付総額 1,558,391円)

株式会社ニチネン

株式会社ニチネン様が片品村の尾瀬工場(平成19年4月に設立)で生産し、販売するミネラルウォーター「尾瀬の湧き水」の収益の一部を、尾瀬の自然環境保全のために役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成19年度から毎年ご寄付をいただき、通算で11回目となります。(通算寄付総額 1,100,000円)

その他寄付者のご紹介

※平成30年8月1日～平成30年10月31日までの寄付者、五十音順、敬称略

尾崎喜一、公孫会北魚支部、合同会社ナシノミクス、國學院大學久我山中学校男子部第2学年の皆様から御支援をいただきました。

表紙の風景 ▶▶▶

山小屋の夕食が終わる頃になると、尾瀬沼ビジターセンター近くのビューポイントには多くの登山者がカメラを片手に集まります。尾瀬ヶ原の朝日が事の始まりの希望であれば、対する尾瀬沼の夕焼けは静かに自分と向き合う贅沢な時間のような気がします。

尾瀬沼の風景は尾瀬ヶ原のそれと違い、切り取る場所や時間で大きく変化するものです。右の写真の紅葉と虹はどちらも自然を写したのですが、紅葉が季節の移ろいを感じる自然なのに対して、虹はどこか幾何学的に空間の移ろいを象徴していると感じるの私だけでしょうか。

同じような風景を写しても、二度と同じ風景には出逢えない。尾瀬の魅力はそんなところにもあるようです。



尾瀬沼の紅葉と虹 撮影日：平成30年10月7日

イベント情報

第23回NHK「わたしの尾瀬」写真展《すべて入場無料》

高崎展

- 期間 平成30年12月14日(金)～19日(水)
午前10時～午後5時 ※19日は午後4時まで
- 会場 高崎シティギャラリー第2展示室
(群馬県高崎市高松町35-1)
TEL:027-328-5050

高崎展公開フォーラム

- 期間 平成30年12月14日(金)
午後3時30分～午後4時30分
- 内容 新井幸人氏、今井隆一氏による入賞作品解説
ビジターセンター自然解説員による尾瀬レポート
- 会場 高崎シティギャラリーコアホール

前橋展

- 期間 平成31年1月11日(金)～16日(水)
午前9時～午後4時 ※11日(金)は午後1時から、16日(水)は正午まで
- 会場 群馬県庁1階県民ホール(群馬県前橋市大手町1-1-1) TEL:027-223-1111

※予定は変更になる場合があります

写真展の運営にご協力いただける尾瀬ボランティアを募集しています。申し込みはボランティア担当まで。

『友の会』コーナー -「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。-

※加入・更新時期は年4回(5月・8月・11月・2月)です。

※2月1日からの加入・更新をご希望の方は12月31日までに会費の納入をお願いします。

《年会費》

個人	個人会員	1口 2,000円
	家族会員 (個人会員と同居の家族)	1口 1,500円
	ユース会員 (加入又は更新時に満22歳以下)	1口 1,500円
	賛助会員 (団体・企業等)	1口 10,000円
	特別会員 (企業等)	3年に渡る30万円以上の寄付または1回100万円以上の寄付

《特典について》

友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただきます。

- 友の会会員バッチ進呈(初回加入時のみ)、各種資料送付
- 財団機関誌：郵送にてお配りします
- 宿泊割引：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引
(休日、祝祭日前等の除外日があります。)
- 尾瀬周辺施設利用料金割引：
対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。
<https://www.oze-fnd.or.jp>

編集後記

私が働く財団事務局からは群馬の名峰赤城山がよく見えます。冬らしい抜けるような空を眺めながら、「あー、赤城の向こうには尾瀬か」と今は無人で完全に自然に戻った尾瀬に思いを馳せています。尾瀬に会えない半年は私にとっては長い長い時間ですが、「尾瀬にも充電期間が必要だね」と自分を納得させています。私も次に尾瀬に会うときに向けて、フルチャージしておかなくちゃ。何か新しいことにもチャレンジしてみようかな。(佐々木)



OZE Mobile ● 緊急情報 ● お知らせ ● ライブ映像 など
スマートフォンサイト情報配信中

Twitter @oze_info

尾瀬情報配信
尾瀬の情報を随時発信します

